

氏名： 宮内 貴久
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 博士（文学）（2003年 筑波大学）
専門分野： 民俗学
E-mail： miyauchi.takahisa@ocha.ac.jp
URL： <http://www.aesthe.ocha.ac.jp/~hp/miyauchi/>

◆研究キーワード / Keywords

家相／風水／大工儀礼書／職人巻物／建築

◆主要業績

総数（4）件

- ・宮内貴久 2009 『風水と家相の歴史』 吉川弘文館
- ・宮内貴久 2009 「家の神信仰－屋内神と屋敷神－」 宮本袈裟雄編『日本の民俗信仰』 八千代出版社
- ・宮内貴久 2009 「奥会津の番匠巻物」 笹原亮二編『口頭伝承と文字文化－文字の民俗学、声の歴史学－』 思文閣出版
- ・宮内貴久 2009 「只見町の番匠巻物ⅠⅡ」『只見町とっておきの話』 只見町

◆研究内容 / Research Pursuits

私は人間がいかに環境を認識し、生活の場である住居を造り上げてきたかを主要な研究テーマとしている。第一のテーマは、東アジアの建築に多大な影響を及ぼしている風水が、日本本土においてどのように受容され展開されてきたかという問題である。その歴史的展開と実態を史料と調査資料の両側面から歴史民俗学的に考察している。第二のテーマは、民俗社会における文字文化の在り方である。従来の民俗学では、民俗はその地で独自に育まれた文化として捉えられてきたが、文字を通して各地の文化を受容し、それまでの地域の文化と融合し定着していく歴史的過程に興味がある。具体的作業としては、会津地方さらには全国的に職人巻物の調査研究を行っている。これは職人の位相を解明するに留まらず、民俗と文字文化を考察する視点も含む。

◆教育内容 / Educational Pursuits

1年次には民俗学の概論を学び、基礎的な知識を学ぶ（民俗学）。2年次には社会伝承、生業・衣食住、儀礼（年中行事・人生儀礼）、信仰伝承、口承文芸など各分野について掘り下げて教育している（民俗文化史各論、民俗文化史概論、歴史民俗文化論）。3年次からは演習が中心である。演習では、文献や論文など資料の探し方を学び、口頭発表を行っていく（生活文化史基礎演習、生活文化史演習、生活文化実習）。4年次は、各自が卒業論文のテーマを選び、それぞれ資料の収集、調査と卒業論文を作成する（民俗文化史演習）。

◆研究計画

風水研究は、文化人類学・地理学・歴史学・建築史学・東洋思想などの領域と共同研究が可能であり、今夏には風水研究の総合的なシンポジウムを計画している。職人巻物、特に大工儀礼書・由緒書研究は歴史学・建築史学との共同研究が可能であり、現在、建築史・意匠領域の科研費を獲得している。

◆メッセージ

お茶大は都心に位置し、国会図書館、博物館や美術館も近くて便利です。学内で勉強するだけでなく、積極的に学外で学んで下さい。また、民俗学はフィールドワークを重視する学問です。フィールドワークが軽くて意欲的に学ぶ人を望みます。